

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「地域の高齢者施設で寺子屋実現」事業

人口減少傾向にある地域で高齢者と児童の交流を通じて 持続可能なコミュニティを形成

高齢者施設でデイサービスを受ける高齢者と、そこに併設された放課後児童クラブに通う子どもたちが絵を描いたり、歌を歌ったり、本を読んだりするなどの共同作業を行い、誕生日会、季節の行事などを一緒に楽しむことを通して、地域の高齢者と子どもが交流できる場と機会を提供する試みに取り組んでいる福祉施設が、島根県の山間部にある。

備品がコミュニケーションツールとなり、 高齢者と児童が名前を呼び合う関係に

中国地方を代表する河川である江の川が貫流する自然豊かな町、島根県美郷町。この風光明媚な土地に設立された「敬愛福祉会」は、「みんなちがってみんないい環境づくり」を法人理念に、2004年にデイサービス「やすらぎの里別府」を開設した。その後、居宅介護支援事業所、学童保育、配食事業などもスタートさせ、近年では町からの助成を受けて認知症カフェなども運営している。さらに現在は、高齢者ととどまらず、人口減少地域の住民を繋ぐための交流の場としての機能も果たせるよう、様々な取り組みにも力を入れている。

人口減少地域で一般的に見られる課題だが、美郷町でもコミュニティの中での交流が高齢者同士に偏る傾向

があり、児童や若者世代との接点が少なくなっていた。そこで当団体では、多世代間の交流を促進することで、高齢者にはやりがいと生きがいを、児童には学習交流を提供する活動に取り組むことにした。当初予定していたアクリルたわし作りなどには児童が興味を示さなかったが、POSCからの助成で充実した折り紙や色えんぴつなど文房具を高齢者スペースに置いたところ、子どもたちも活用するようになり、それが交流のきっかけとなった。そうした文房具で遊ぶ児童たちを見た高齢者も、一緒に同じことを楽しむようになった。充実した備品が学童利用の児童や近隣から訪れる未就学児と高齢者とのコミュニケーションツールとなっているわけで、高齢者と児童がお互いの名前を覚え、呼び合うような関係性を構築できたことは、当該事業の大きな成果と言えるだろう。



工作など共同で作業を行いながら交流



季節の行事なども一緒に楽しめるイベントを実施

助成団体:社会福祉法人 敬愛福祉会

<https://keiai-beppu.or.jp>



助成を頂いたおかげで、これまでできなかったことが実現できました

今年度、助成金を頂き、ありがとうございました。この助成金により、これまでやりたくてもできなかったことを実現できたり、買いたくても買えなかったものが購入できたりしました。大変うれしく感じています。今後は、SNSなども活用していきたいと思っています。

社会福祉法人 敬愛福祉会
理事長 横張 寿希さん

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「食を通した国際教育『国際子ども食堂』」事業

孤立に悩む在留外国人も経済的困難を抱える日本人も 分け隔てなく支援することで理解と交流の輪を広げる

「同じ釜の飯を食う」ということわざがあるように、一緒に食卓を囲んでごはんを食べることは、お互いの理解につながる。在留外国人が母国の料理を地域の高校生や大学生のボランティアとともに調理し、地域の子供たちに振る舞う「国際子ども食堂」の活動は、海外にルーツを持つ家庭だけではなく、つながりを必要とする人々の居場所ともなっている。

国籍や年齢を問わずに一緒に食卓を囲み お互いの世界を身近に感じられる食堂

愛媛県松山市に拠点を置く「松山さかのうえ日本語学校」は、在留外国人への支援を通じた地域づくりを行っている団体である。“支援”という縦の関係性や“交流”という一過性のものではなく、外国人と日本人が日常の中で自然とつながり、価値観に変化を起こすことで、誰もが共生できる社会を目指して活動を続けている。カフェ、国際コワーキングラウンジ、教育時差を埋める授業、国際防災教育プログラムなど多彩な活動を展開しているが、活動の柱の一つとなっているのが「国際子ども食堂」である。

この子ども食堂は外国人が母国の料理を振る舞うという、珍しい取り組みで、国籍や年齢を問わず、子どもも大人も一緒に食卓を囲むことで、外国人も日本人もお互いの世

界を身近に感じる事が可能になる。松山にきた留学生たちが、言語や文化の壁により孤立してしまう現状に気づいたことをきっかけにスタートしたものだが、同時に1人でごはんを食べる子どもが多いという課題を解決するため、みんなが気軽に集まってごはんを食べることで、学びにもなる温かな居場所を提供したいという思いも込められている。

2024年度の国際子ども食堂は5月～3月にかけて、毎月1回、計11回実施したが、その食費や調理器具の購入にPOSCの助成が役立った。インド、インドネシア、アルメニア、韓国、日本などの国をテーマにした料理が提供され、毎回100名以上が参加した。また、2025年3月にはNHKのEテレの番組でも取り上げられ、全国に紹介された。



外国人が母国の料理を振る舞う「国際子ども食堂」



様々な国をテーマにした料理が振る舞われた

助成団体:特定非営利活動法人 松山さかのうえ日本語学校

<https://www.m-sakanoue.org>



おかげさまで私たちの活動の認知も広がり、協力者も増えました

今回の助成を活用することで、集まった外国人の母国のお料理をボランティアの学生たちとともに調理をすることで生まれる国際教育、そしてゲストとして外国人と交流することで新しく育まれるつながりなど、多くの新しい価値を生み出すことができました。

特定非営利活動法人 松山さかのうえ日本語学校
代表理事 山瀬 麻里絵さん